

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 18 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500293

研究課題名(和文) 大学教育における教員と図書館員の連携の構築に関する比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study on Building Collaboration between Faculty Members and Librarians in University Education

研究代表者

長澤 多代 (NAGASAWA, Tayo)

三重大学・附属図書館研究開発室・准教授

研究者番号：30346944

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、大学教育における教員と図書館員の連携という観点から、クイーンズ大学及びエッカード・カレッジのケース・スタディを完成させ、すでに明らかにしたケースのモデルも含めて比較分析をすることである。

クイーンズ大学については、文献調査に加えて、2012年度から2014年度までに3度の訪問調査を行い、関係者への聴き取りや観察調査によって得たデータや内部資料をもとに、教員と図書館員の連携構築のモデルを構築している。エッカード・カレッジについては、訪問調査がかなわなかったために、文献調査に加えて、元図書館長への聞き取りを行った。以上の調査で得たデータをもとに、ケース間の比較分析を進めている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to explore the research question, "What are librarians' main approaches to faculty members and the causal conditions in libraries and universities which promote collaboration between faculty members and librarians?" To answer this question, collaboration models have been constructed based on qualitative case studies of Queen's University and Eckerd College.

At Queen's University, information literacy instruction provided by medical librarians has been integrated into the curriculum because the librarians worked with Curriculum Committee members to develop it. Supported by a librarian with the doctoral degree in Education, workshops and individual consultations have been used to help the librarians design their programs and develop rubrics. At Eckerd College, librarians have worked with faculty members in their courses after building personal relationships with them. The small community makes it easy for them to keep in daily contact with one another.

研究分野：図書館情報学

キーワード：情報リテラシー教育 大学図書館の学習・教育支援機能 大学教育における教員と図書館員の連携 教職協働 教育の質保証 高等教育開発 ケース・スタディ グラウンディッド・セオリー

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の大学では、教育の質保証を目指して大規模な教育改革を進めている。大学図書館（以下、図書館という）では、大学の一部局として、情報を主体的に活用する能力である情報リテラシーを育成するために情報リテラシー教育（学習支援）を提供し、質保証に貢献しようとしてきた。だが、多くの図書館関係者（図書館員及び図書館情報学の研究者）が指摘してきた問題として、授業と図書館の関連づけや教員と図書館員の連携がなければ学習支援による学習成果が十分に得られないことがある。高い学習成果を得られる学習支援のあり方を検討するためには、大学教育における教員と図書館員の連携について研究することが重要になる。その中で、図書館が実施する教育開発（ファカルティ・ディベロップメント（FD））関係の活動である教員に対する教育活動の支援（教育支援）が、教員と図書館員の連携にどのような影響を与えてきたのかを明らかにすることも重要になる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学教育における教員と図書館員の連携に関する比較研究のために、米国のエッカード・カレッジ（Eckerd College）及びカナダのクイーンズ大学（Queen's University）のケース・スタディによって、次の研究課題を明らかにすることである。

- (1) 大学図書館が実施する学習支援や教育支援において、教員と図書館員はどのように連携しているのか。
- (2) 図書館員の教員に対するアプローチの中で、何が教員と図書館員の連携の構築を促す要因となっているのか。
- (3) 教員と図書館員の連携の構築を促す大学図書館内外の要因は何か。

これらの研究課題をケースごとに明らかにして、各ケースのモデルを構築する。そして、ここで明らかにしたモデルを、これまでに実施してきた米国のアールラム・カレッジ（Earlham College）及びミシガン大学（the University of Michigan）、カナダのウエスタン・オンタリオ大学（the University of Western Ontario）のケース・スタディによって明らかにしたモデルと比較分析することによって、大学教育における教員と図書館員の連携についてより汎用性の高いモデルを構築するための最初の手がかりを得る。

3. 研究の方法

本研究の方法は、質的なケース・スタディである。まずは、収集したデータをもとに、各ケースのモデルを構築する。これらのモデルを、これまでに実施しているケース・スタディをもとに明らかにした複数のモデルと比較分析し、より汎用性の高いモデルを構築する。具体的な手順は次のとおりである。

- (1) 文献調査と訪問調査によって、エッカード・カレッジ及びクイーンズ大学に関する情報を収集する。文献調査では、公表された論文に加えて、内部資料や Web 上の情報を収集する。訪問調査では、図書館関係者、教員、教育開発を担当する専門職員への聴き取り、学習支援や教育支援に関するセッションの観察などをもとに、データを収集する。
- (2) 収集したデータを帰納的分析法、特に、グラウンデッド・セオリーの手法（Strauss & Corbin, 1990）を用いて分析し、エッカード・カレッジとクイーンズ大学それぞれのケースのモデルを構築する。
- (3) 次に、テーマ的コード化の手法を用いて、これまでに実施してきたケース・スタディをもとに構築したモデルとのモデルを比較分析し、共通点や違いを明らかに

する。

4. 研究成果

2012年度から2014年度までの研究の主な成果は次のとおりである。

- (1) クイーンズ大学については、図書館関係者、教員、教育開発の担当者への聞き取り、授業や学習支援に関するセッションの観察調査をもとに、教育学部、法学部、工学部、健康科学部（医学科、リハビリテーション学科）における教育と各部署図書館が提供する情報リテラシー教育に関する情報を広く収集した。
- (2) 特に、医学科（健康科学部）と工学部については、専門分野における質保証の動向、カリキュラム改革のためのカリキュラム委員会と図書館員の関わりに関する情報を収集した。
- (3) 情報リテラシー教育を担当する図書館員を支援するために図書館内に設置された組織の活動内容、ここで支援を受けた図書館員による情報リテラシー教育の設計や実施の実状に関する情報を収集した。
- (4) 文献調査については、図書館員や教育開発を担当する専門職員による公表された論文、Web上で公開されたクイーンズ大学や関連する諸機関に関する情報、内部資料を収集した。
- (5) エッカード・カレッジについては、訪問調査の問い合わせに対して、現職の図書館長から「新しい体制になったばかりで、訪問調査に適した時期ではない」という回答を得たことから、研究期間内の訪問調査を見送ることになった。
- (6) 文献調査については、図書館員や図書館長による論文、エッカード・カレッジと連携していたカレッジのアーカイブにおける記録資料を収集した。
- (7) 以上に加えて、1983年から1995年まで図書館長を務めていた元図書館長への聞き取りを行った。
- (8) クイーンズ大学及びエッカード・カレッジについては、以上の文献調査及び訪問調査によって得たデータをもとに、各ケースのモデルを構築している。
- (9) 本研究の分析対象である2つのケースに加えて、前出の3つのケース、そして、同時並行で進めているフィンランドのタンペレ大学（University of Tampere）及びオーボ大学（Åbo Akademi University）の2つのケース・スタディを加えた7つのケースのモデル（作成途中のものを含む）をもとに、社会関係構築型（アラム・カレッジ及びミシガン大学）、カリキュラム介入型（クイーンズ大学及びタンペレ大学）など、大学教育における教員と図書館員の連携構築に関する類型の大枠を設定した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- 1) 長澤多代「主体的な学びを支える大学図書館の学修・教育支援機能：ラーニング・コモンズと情報リテラシー教育を中心に」『京都大学高等教育研究』〔高等教育の動向（招待論文）〕No.19, 2013, p.99-110.〔査読なし〕
- 2) 長澤多代「ミシガン大学の図書館が実施する学習支援・教育支援に関するケース・スタディ：フィールド・ライブラリアンの活動を中心に」〔短報〕『Library and Information Science』No.70, 2013, p.177-217〔査読あり〕
- 3) 長澤多代「大学図書館が実施する学修支

援・教育支援サービス：北米の事例から見えるもの」〔講演要旨〕『東海地区大学図書館協議会誌』, No.58, 2013 . p.22-33. [査読なし]

- 4) 長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促すカスタマイズ型の学習支援：アラム・カレッジのケース・スタディをもとに」〔論文〕『日本図書館情報学会誌』Vol.58, No.4, 2012.12, p.185-201. [査読あり]
- 5) 長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促す図書館員によるつながり方の開拓：アラム・カレッジのケース・スタディをもとに」〔論文〕『日本図書館情報学会誌』Vol.58, No.1, 2012.3 , p.18-34. [査読あり]

〔学会発表〕(計 18 件)

本研究のテーマに直接的に関係する学会等での発表(招待講演を含む)は次のとおりである。

- 1) NAGASAWA Tayo. "Building Collaboration between Faculty Members and Librarians in University Education," [Lecture] Department of Library and Information Studies, Graduate School of Education, Seminar Series Spring 2015, University at Buffalo, State University of New York, Buffalo (New York, USA), 2015.2.24.
- 2) 上田信行, 河西由美子, 長澤多代, 小山憲司「学びの空間デザインとファシリテーション：図書館を活用した学習支援を考える」〔シンポジウム(パネリスト)〕日本図書館情報学会, 第 62 回日本図書館情報学会研究大会, 梅花女子大学(大阪府茨木市), 2014.11.30.
- 3) 長澤多代「教員と図書館員が連携する学術情報リテラシー教育」〔講義〕国立情報学研究所, 平成 26 年度学術情報リ

テラシー教育担当者研修, 国立情報学研究所(東京都千代田区), 2014.11.27.

- 4) 長澤多代「三重大学のスタートアップセミナーにおける情報リテラシー教育」〔事例報告〕/仁上幸治, 和田佳代子, 鈴木恵津子, 長澤多代, 日向義和, 高橋みち子「図書館利用教育の実践力の今」〔パネルディスカッション(パネリスト)〕第 100 回全国図書館大会・第 23 分科会・利用教育, 明治大学駿河台キャンパス(東京都千代田区), 2014.11.1.
- 5) 長澤多代「アクティブラーニングを目指して：ラーニングコモンズによる学習環境の整備」〔基調講演〕平成 26 年度兵庫県大学図書館協議会研修会, 関西学院大学(兵庫県西宮市), 2014.10.24.
- 6) 長澤多代「主体的な学修を促すラーニングコモンズの運用と設計」〔基調講演〕平成 26 年度東北地域大学教育推進連絡会議, 弘前大学(青森県弘前市), 2014.10.18.
- 7) 長澤多代「三重大学「4 つの力」スタートアップセミナー」の授業づくり」「フィンランドの大学図書館における情報リテラシー教育」〔研修(講師)〕2014 年度学部間共通総合講座「図書館活用法」SD 研修会「図書館リテラシー教育の改善に向けて」明治大学図書館, 明治大学和泉図書館(東京都杉並区), 2014.8.1.
- 8) 長澤多代「大学の教育改革に大学図書館の学修支援を組み入れる諸方策」〔基調講演〕/久保田進一, 長澤多代, 鹿田正昭, 鎌田均, 堀井祐介, 柴田正良「大学図書館におけるこれからの学習支援：ラーニングコモンズを超えて」〔パネルディスカッション(パネリスト)〕大学間連携共同教育推進事業, 学都いしかわ・課題解決型グローバル人

- 材育成システムの構築「図書館機能強化プログラム」シンポジウム，金沢大学（石川県金沢市），2014.3.11.
- 9) 長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促すカスタマイズ型の学習支援」〔レクチャー〕/ 矢崎美香，長澤多代，常世田良「教育を変えるための図書館と教員連携そしてレファレンス強化」〔ディスカッション〕大学図書館問題研究会・福岡支部例会，立命館アジア太平洋大学（大分県別府市），2014.2.15.
- 10) 長澤多代「大学教育改革における大学図書館：学修支援，教育支援，教員との連携」〔講演〕平成 25 年度大分県大学図書館協議会研修会，立命館アジア太平洋大学（大分県別府市），2014.2.14.
- 11) NAGASAWA Tayo. "Building Collaboration between Faculty Members and Librarians in University Education," Research Seminar, Information Studies, School of Business and Economics, Åbo Akademi, Turku, Finland, 2013.12.2.
- 12) 長澤多代「主体的な学びのベースとなる大学図書館の学習空間とサービス：ラーニングコモンズと情報リテラシー教育を中心に」〔小講演〕京都大学高等教育研究開発推進センター，第 19 回大学教育研究フォーラム，京都大学（京都府京都市），2013.3.15.
- 13) 長澤多代「大学図書館が実施する学習支援・教育支援サービス：北米の事例から見えるもの」〔講演〕/ 近田政博，山田政寛，長澤多代，橋洋平，森部圭亮，仲秋雄介，池上佳芳里，高橋里江，神谷知子「海外大学図書館にみる学習支援」〔パネルディスカッション（パネリスト）〕平成 24 年度・第 1 回東海地区大学図書館協議会研修会，名古屋大学（愛知県名古屋市），2012.12.13.
- 14) 長澤多代「学生の学習を促す学習支援環境としての大学図書館：ラーニングコモンズの効果的な設計と運用を中心に」〔講演〕全学 FD 研修会「学習支援・自主学習を促すための教育環境」，聖隷クリストファー大学（静岡県浜松市），2012.12.5.
- 15) 佐々木奈三江「図書館を使った学習支援：徳島大学附属図書館「ラーニング・コモンズ」の事例から」，長澤多代「図書館を利用した学習支援：教員と図書館員が連携した授業設計」〔講演〕平成 24 年度・第 2 回大学開放実践センター特別研究会 / 全学 FD 推進プログラム・第 3 回 FD・SD セミナー，徳島大学（徳島県徳島市），2012.11.30.
- 16) 長澤多代「大学図書館による教育の質保証への貢献：期待される学習支援・教育支援サービス」〔講演〕近畿地区四教育大学附属図書館連携事業，大阪教育大学（大阪府柏原市），2012.10.31.
- 17) 長澤多代「教員と図書館員が連携する学術情報リテラシー教育」〔講義〕国立情報学研究所，平成 24 年度学術情報リテラシー教育担当者研修，大阪大学（大阪府豊中市），2012.10.25 / 国立情報学研究所（東京都千代田区），2012.11.29.
- 18) 長澤多代「協働する図書館：図書館員による教員とのつながり方の開拓」〔講演〕大学図書館問題研究会・第 43 回全国大会（京都），第 7 分科会：利用者支援 B，コミュニティ嵯峨野（京都府京都市），2012.8.5.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

1) 長澤多代（三重大学附属図書館研究開発室）

http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa.html

2) NAGASAWA Tayo (Research Development Office, Mie University Library)

http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa_en.html

3) 長澤多代（Read&Researchmap）

<http://researchmap.jp/3770/>

4) 長澤多代（三重大学教員紹介）

<http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/2510.html>

5) 長澤多代（三重大学全学シーズ集）

<http://www.crc.mie-u.ac.jp/seeds/contents/detail.php?mid=20110209-151335&t=b&url=%E9%99%84%E5%B1%9E%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8>

6. 研究組織

(1)研究代表者

長澤 多代 (NAGASAWA Tayo)

三重大学・附属図書館研究開発室・准教授

研究者番号：30346944

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：